

# 土地改良事業計画概要書

## 県営三条北部第1地区

区画整理・農業用排水施設整備  
(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

# 目 次

第1章 目 的	-----	1
第2章 地域の所在及び現況	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3節 現 況	-----	3
第4節 地域環境の概況	-----	13
第3章 基本計画	-----	14
第1節 事業計画の要旨	-----	14
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	16
第3節 用水計画	-----	17
第4節 排水計画	-----	20
第5節 道路計画	-----	23
第6節 農用地造成計画	-----	23
第7節 農用地整備計画	-----	24
第4章 工事又は管理の要領	-----	26
第1節 工事の内容	-----	26
第2節 管理の要領	-----	26
第5章 換地計画の要領	-----	27
第6章 費用の概算	-----	29
第7章 効 用	-----	30
第8章 他の事業との関係	-----	31
第9章 計画概要図	-----	32

## 第1章 目的

本地区は、三条市の北部に位置し、一級河川・信濃川の右岸に位置するおよそ40haの耕地である。これまで耕地整理事業により、昭和30年代までに20a区画に整備は行っているものの、区画は小さく、農道幅員も3.0m以下で、作業機械の通行もままならないなど、現在の農作業体系に即していないため、営農に支障を来している。

地区の用排水は一級河川・信濃川に依存しており、栗林揚水機、栗林用水路によりかんがいし、新川排水路、新川排水機により排水している。地区内の用排水は分離がされており、暗渠排水は地区の一部において施工済みではあるが、既存施設の老朽化により、機能低下が著しく、排水不良となっているため、地区内においては園芸作物等の導入による複合経営が実施されていない状況である。

さらに、地区内の農業従事者の高齢化等を理由に、離農農家が増えており、本地区の農業は衰退傾向である。当該状況を改善するため、区画整理による大区画化、用排水路の整備、水田の汎用化による園芸作物の導入を行うことにより、担い手へ農地の集積・集約、経営規模の拡大及び地域農業の活性化を図るとともに、『儲かる農業』の実現を目指すものである。

## 第2章 地域の所在及び現況

### 第1節 地域

事業名	地域
区画整理・農業用排水施設整備	新潟県三条市 柳場新田、須戸新田、井栗

### 第2節 地積

(令和7年9月現在)

事業名	現況地目 市町村名	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
	区画整理	三条市	38.1	0.6	—	—	4.3	43.0
計		38.1	0.6	—	—	4.3	43.0	
農業用排水 施設整備	三条市	(27.3)	—	—	—	—	(27.3)	※区画整理事業と重複
	計	(27.3)	—	—	—	—	(27.3)	
合計		38.1	0.6	—	—	4.3	43.0	

( ) は重複受益である。

### 第3節 現 況

#### 1. 気象及び海象

##### (1) 一般気象

観測所名	三条観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	備考欄参照	5月～9月	10月～4月		
平均気温 (°C)		22.6	7.5	13.8	気象庁HPデータ 1995年～2024年
降水量	平均 (mm)	158.8	184.4	173.7	〃
	基準年 (mm)	137.5	148.5	143.9	基準年：2016年（栗林揚水機水利権許可変更申請書（H30.2）より） 数 値：気象庁HPデータより
降水日数	平均 (日)	11.7	18.4	15.6	気象庁HPデータ 1995年～2024年
	基準年(日)	12.2	17.3	15.2	基準年：2016年（栗林揚水機水利権許可変更申請書（H30.2）より） 数 値：気象庁HPデータより
根 雪 期 間		1月 10日 ～ 2月 19日		41日間	出典：新潟地方気象台 1991年～2020年
無 霜 期 間		4月 1日 ～ 11月 26日		240日間	〃
最 多 風 向		北	最大風速 (風 向)	14.0m/s ( 北北西 )	最多風向発生時期 10月 最大風速発生年月日 1997年6月29日 気象庁HPデータ 1995年～2024年

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
三条観測所																
観測期間	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	
備考欄参照																
最大日雨量 (mm)	208.0	2004.7.13	1/40	207.0	2011.7.29	1/40	173.5	2010.9.12	1/15	162.0	1978.6.26	1/10	147.0	2005.8.10	1/7	気象庁HPデータ 1976.3～ 2025.4
最大時間雨量 (mm)	72.0	2005.8.10	—	65.5	2017.7.18	—	62.0	2011.7.29	—	60.5	2024.8.25	—	56.0	2019.8.19	—	気象庁HPデータ 1976.3～ 2025.4
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最大連続雨量 (mm)	704.0	1963年 35日間	1/200	519.0	1985年 10日間	1/40	499.0	1964年 20日間	1/30	374.5	2013年 16日間	1/7	364.4	1956年 24日間	1/7	水文統計資料 第14版
最大連続干天日数 (日)	45	1994年	1/500	42	1985年	1/200	29	2018年	1/20	27	1960年	1/10	24	1983年	1/7	水文統計資料 第14版 (かんがい期 間)

(3) 海象  
該当なし

2. 地形、地質及び土壌

本地区の標高は5.43～6.61mで、平均地形勾配は1/620であり、地区内の排水路へ向かい緩やかに傾斜している。  
土壌は全域でグライ反応を示し、排水不良である。

(1) 地形

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高 (m)		備考
		1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
区画整理	面積 (ha)	—	38.1	—	—	—	38.1	0.6	—	—	—	—	0.6	6.61	5.43	
	比率 (%)	—	100.0	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	100.0			
農業用 施設用 整備排水	面積 (ha)	—	(27.3)	—	—	—	(27.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	※区画整理事業と重複
	比率 (%)	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—			
合計	面積 (ha)	—	38.1	—	—	—	38.1	0.6	—	—	—	—	0.6	—	—	
	比率 (%)	—	100.0	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	100.0			

( ) は重複分である。

(2) 地質及び土壌

地質：第四紀沖積

土壌：D30（強グライ土壌－強粘土還元型）、E40（グライ土壌－強粘土構造型）

### 3. 水利状況

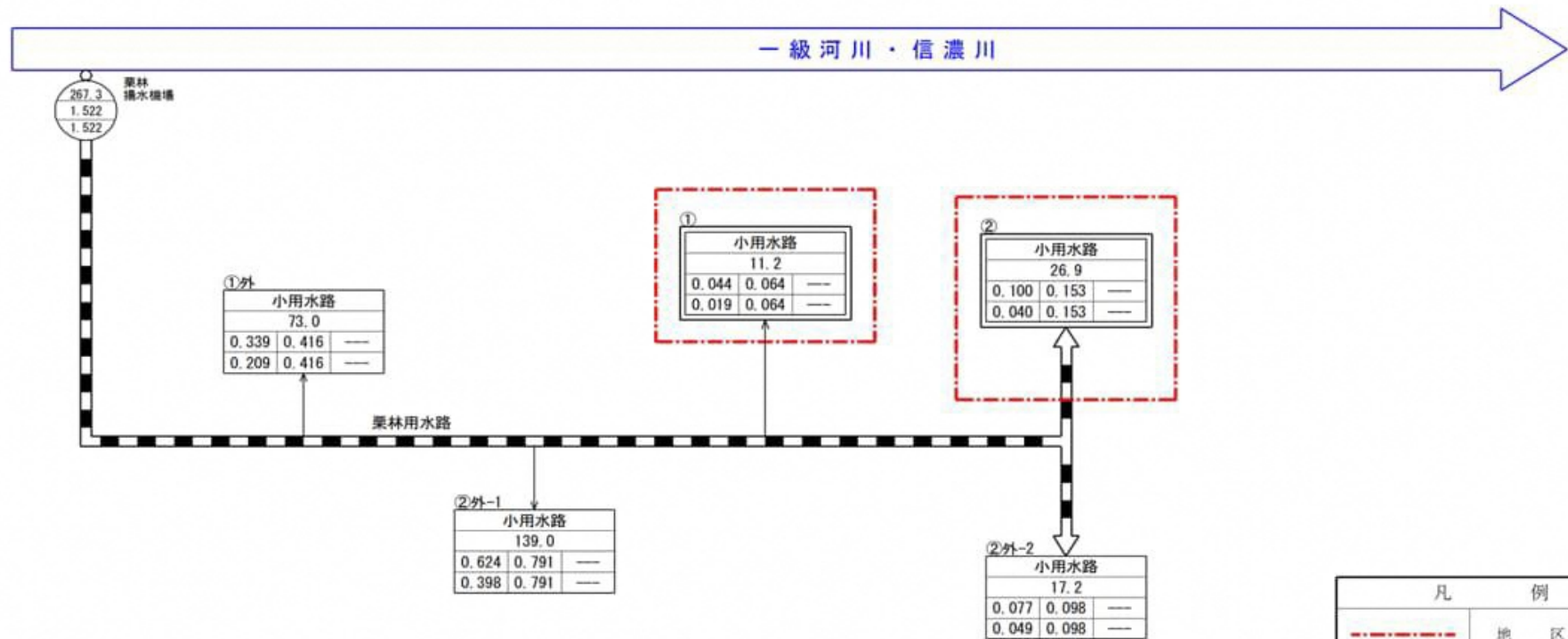
#### (1) 用水状況

本地区の用水は一級河川・信濃川に依存しており、栗林揚水機より取水し、栗林用水路を経て地区へかんがいしている。

#### (ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

現況用水系統模式圖



①外

小用水路		
73.0		
0.339	0.416	—
0.209	0.416	—

①

小用水路		
11.2		
0.044	0.064	—
0.019	0.064	—

②

小用水路		
26.9		
0.100	0.153	—
0.040	0.153	—

②外-1

小用水路		
139.0		
0.624	0.791	—
0.398	0.791	—

②外-2

小用水路		
17.2		
0.077	0.098	—
0.049	0.098	—

凡 例

	地区界
	用水路
	地区内
	(-) 代保期所蓄水量
	(=) 代保期利用可能水量
	(H) 普通期所蓄水量
	(~) 普通期利用可能水量
	(T) 干 地 量
	地区外
	通水量
	(O) 代 保 期
	(~) 普 通 期
	還元水量
	(O) 代 保 期
	(~) 普 通 期

(イ) 用水施設

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権等		延べ 取水量	備考
		500ha以上		500～100ha		100ha未満		箇所	ha	箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	m <sup>3</sup> /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha								
区 画 整 理	揚水機	—	—	—	—	1	38.1	1	38.1	1	1.522	—	—	1.522	
	計	—	—	—	—	1	38.1	1	38.1	1	1.522	—	—	1.522	
農 業 用 用 排 水 施 設 整 備	揚水機	—	—	—	—	(1)	(27.3)	(1)	(27.3)	(1)	(1.522)	—	—	(1.522)	※区画整理事業と重複
	計	—	—	—	—	(1)	(27.3)	(1)	(27.3)	(1)	(1.522)	—	—	(1.522)	〃
合 計		—	—	—	—	1	38.1	1	38.1	1	1.522	—	—	1.522	

( ) は重複分である。

(ウ) 改修を要する施設一覧表  
該当なし

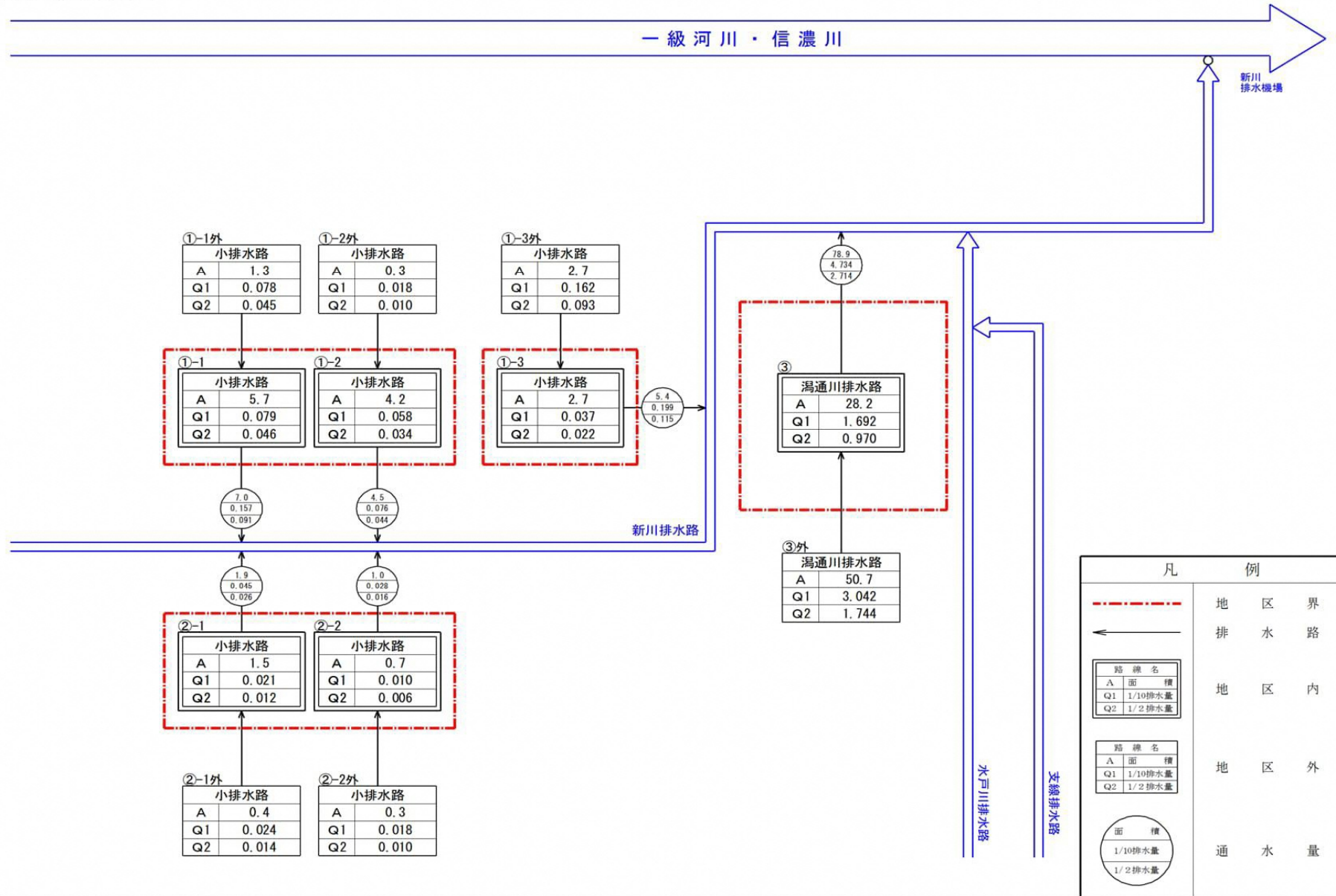
(2) 排水状況

本地区の排水は、新川排水路を経て新川排水機より一級河川・信濃川へ機械排水される。

(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図



(イ) 排水施設

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行 (m <sup>3</sup> /s)		現況排水能力 (m <sup>3</sup> /s)		備考	
			500ha以上		500~100ha		100ha未満									
	施設名		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha						
区画整理	自然	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	機械	新川排水路	—	—	—	—	1	98.7	1	98.7	—	—	—	5.436		
	計		—	—	—	—	1	98.7	1	98.7	—	—	—	5.436		
農業用排水 施設整備	自然	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	計		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計		—	—	—	—	1	98.7	1	98.7	—	—	—	5.436			

(ウ) 改修を要する施設一覧表  
該当なし

4. 河川状況  
該当なし

5. 道路概況

本地区の北側に隣接するように主要地方道・新潟小須戸三条線が走る。周辺には他にも国道8号や国道403号、複数の県道が走るため、地区とのアクセスは良好である。しかし地区内の農道は幅員が狭く、作業効率が悪い。

6. 営農状況

本地区は平地農業地域（水田型）に属し、水稻を基幹作物としている。地区付近の河川堤外地ではキャベツの作付けに取り組み、地域の園芸作物の導入及び拡大の意向は強いが、平坦地の水田においては排水不良による耕地条件の悪さが影響し実現に至っていない。

また、農業従事者の高齢化が進んでおり、将来の地域農業の核となる担い手の育成が大きな課題となっている。

#### 第4節 地域環境の概況

本地区がある三条市は新潟県のほぼ中央に位置し、市の北西部は一級河川・信濃川の沖積平野となっており、平坦な地形の中を一級河川・刈谷田川等の信濃川支流が流れている。市の東部には標高1,000mを超える山地があり、付近を源流とする一級河川・五十嵐川が支流を集めながら市内を南東から北西へと貫流し、三条市本町付近で信濃川に合流しており、五十嵐川沿いには河岸段丘が形成されている。

本地区は信濃川に沿った平野地域に位置しており、市が策定する環境に配慮した農業農村整備事業実施の基本構想である「三条市農村環境計画」においては「平地ゾーン」に分類されているほか、本地区の整備方針としては、「実り豊かな水田とうるおいある農村環境の保全」及び「生物生息環境の保全に配慮した整備の推進」などが位置付けられており、環境保全に留意すべき地域とされている。

### 第3章 基本計画

#### 第1節 事業計画の要旨

##### 1. 要旨

本計画は区画整理事業A=37.9haを施工して、ほ場の区画拡大及び耕地の汎用化を図り、労働生産性の向上を目指す。また、農地集積・集約化を促進し安定した農業経営を確立する。

標準区画はA=1.05ha（長辺150m×短辺70m）とした。道路計画は全幅員6.0m（有効幅員5.0m）の敷砂利舗装を主とした。用水計画は水の有効利用及び水管理の合理化を図るためにパイプライン方式を採用した。排水計画は塩ビ管による管排水路を基本とし、地区外からの流入や他水路が合流する場合は排水フリュームを布設する計画とした。また、耕地の汎用化を図るために土壌調査結果に応じて暗渠排水を計画した。

##### 2. 事業別面積

事業名 土地利用区分 事業目的	区画整理					農業用排水施設整備				計 (ha)	備考
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	小計 (ha)	水田 (ha)	普通畑 (ha)	果樹園 (ha)	小計 (ha)		
区画整理	37.9	-	-	-	37.9	(27.3)	-	-	(27.3)	37.9	※区画整理事業と重複
計	37.9	-	-	-	37.9	(27.3)	-	-	(27.3)	37.9	

( ) は重複受益である。

### 3. 環境との調和への配慮

本地区は信濃川に沿った平野地域に位置し、「三条市農村環境計画」においては「平地ゾーン」に分類されている。当該計画における本地区の整備方針に記載されている下記項目を考慮し、本地区の環境配慮への対策等を行う。

#### 【「三条市農村環境計画」における本地区の整備方針】

- 方針1：実り豊かな水田とうるおいある農村環境の保全
- 方針2：生物生息環境の保全に配慮した整備の推進
- 方針3：人々が農業農村と触れ合う機会の創出
- 方針4：三条市の農業農村情報の発信と広域交流の推進

#### (1) 保全対象種の選定

本地区で行われた生物調査により確認され、かつ環境配慮対策の評価上の指標となる「ドジョウ」を保全対象種に選定した。

#### (2) 環境配慮対策等

本地区における環境配慮対策、環境配慮にあたっての体制及び各機関の主な役割は、以下のとおりである。

##### ア 環境配慮対策

- ・ 動植物の生息及び生育環境を保全するには、一部を保全空間として工事除外にする等の対策が望ましいが、対象種が確認された土水路をそのまま残すことは湛水被害防止の観点から望ましくないため、代替として計画開排水路の一部に環境配慮型水路を設置することで、対象種を含めた動植物の生息及び繁殖空間を確保する。
- ・ 十分清掃した後に施工機械の搬出入を行うことにより、工事期間中の施工機械による動植物の移動を避ける。

##### イ 環境配慮にあたっての体制及び各機関の主な役割

各機関において主な役割を担い、連携等を図ることで、本地区の環境配慮への体制を整備する。

##### (ア) 三条市（公共施設としての管理）

- ・ 住民の手に負えない管理の支援、「三条市環境基本計画」における本地区の位置づけの明確化

##### (イ) 三条土地改良区（調整役）

- ・ 施設の維持管理、住民と行政との調整

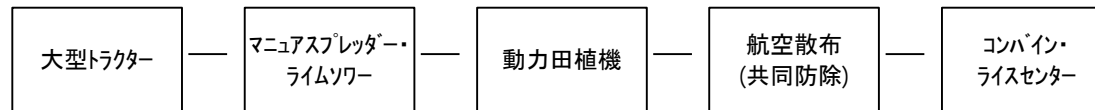
##### (ウ) 住民組織の役割（日常の管理）

- ・ ゴミ拾いや草刈り等の日常の管理

## 第2節 営農計画及び土地利用計画

### 1. 営農計画の概要

- a) 経営方式                    水稲転作複合     水稲、キャベツ、さといも
- b) 経営組織                    法人の育成を図り農地の集団化、土地利用権の集積に努め、農業経営の安定を図る。
- c) 作業体系（水稲）         耕起整地    →    基肥    →    植付    →    防草防除    →    収穫調整



### 2. 土地利用区分

事業名	土地利用区分 区分	耕地							採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計						
区 画 整 理	現 況	38.1	0.6	—	—	—	—	38.7	—	—	—	4.3	43.0	
	計 画	37.9	—	—	—	—	—	37.9	—	—	—	5.1	43.0	
農 業 用 整 備 排 水	現 況	(27.3)	—	—	—	—	—	(27.3)	—	—	—	—	(27.3)	※区画整理事業と重複
	計 画	(27.3)	—	—	—	—	—	(27.3)	—	—	—	—	(27.3)	”
計	現 況	38.1	0.6	—	—	—	—	38.7	—	—	—	4.3	43.0	
	計 画	37.9	—	—	—	—	—	37.9	—	—	—	5.1	43.0	

( ) は重複受益である。

### 第3節 用水計画

#### 1. 計画基準年

2016年

(栗林揚水機水利権許可変更申請書 (H30.2) より)

#### 2. 計画かんがい方式

##### a) かんがい期間

4月29日～9月2日 (計127日間)

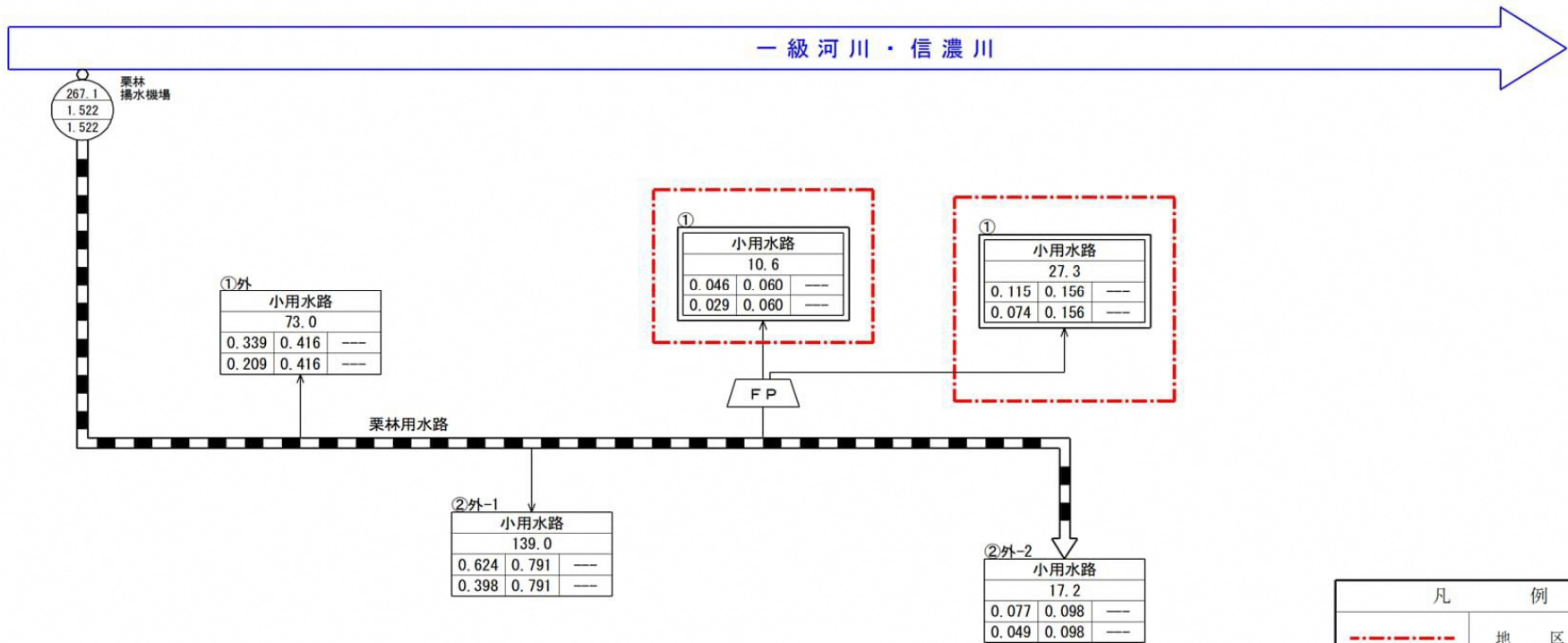
##### b) かんがい方式

揚水機場によりファームポンドへ揚水した水圧を活用した自然圧パイプライン方式

#### 3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

計画用水系統模式図



凡 例

	地区界				
	用水路				
<table border="1"><tr><td>路線名</td></tr><tr><td>面積</td></tr><tr><td>(ハ) (ニ) (ト)</td></tr><tr><td>(ホ) (ヘ) (ロ)</td></tr></table>	路線名	面積	(ハ) (ニ) (ト)	(ホ) (ヘ) (ロ)	地区内
路線名					
面積					
(ハ) (ニ) (ト)					
(ホ) (ヘ) (ロ)					
	(ハ) 代播期所要水量				
	(ニ) 代播期利用可能水量				
	(ホ) 普通期所要水量				
	(ヘ) 普通期利用可能水量				
	(ロ) 不足量				
<table border="1"><tr><td>面積</td></tr><tr><td>(ロ)</td></tr><tr><td>(ハ)</td></tr></table>	面積	(ロ)	(ハ)	地区外	
面積					
(ロ)					
(ハ)					
	通水量				
	(ロ) 代播期				
	(ハ) 普通期				
<table border="1"><tr><td>面積</td></tr><tr><td>(ロ)</td></tr><tr><td>(ハ)</td></tr></table>	面積	(ロ)	(ハ)	還元水量	
面積					
(ロ)					
(ハ)					
	(ロ) 代播期				
	(ハ) 普通期				

4. 計画用水量

系統名	項目	面積 (ha)			水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m³/s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
		事業名			普通期	代かき期	面 積	一日当たり計画 平均かん水深	平均 間断日数	面 積	一日当たり計画 平均かん水深	平均 間断日数	面 積	単 位 用 水 量	計 画 平 均 積			平均	最大	
		区 画 整 理	農 業 用 排 水 施 設 整 備	計																
					37.9	(27.3)	37.9	18.9	150 (13.8)	37.9	25	3	4.2	—	—			—	—	
一級河川・ 信濃川	農業 用水	37.9	(27.3)	37.9	18.9	150 (13.8)	37.9	25	3	4.2	—	—	—	—	—	0.093~ 0.146	10	0.1	0.16	
計		37.9	(27.3)	37.9	18.9	150 (13.8)	37.9	25	3	4.2	—	—	—	—	—	0.093~ 0.146	10	0.1	0.16	

面積の ( ) は重複受益である。  
代かき期の ( ) は減水深である。

5. 水源計画

(1) 水利用計画

項目	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源工 種	備考	
					水源名	取水地点 利用可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量			
														a (千m³)
区分														
区 画 整 理 ・ 農 業 用 排 水 施 設 整 備	一級河川・ 信濃川	1,043	—	1,043	1,159	一級河川・ 信濃川	1,159	1,043	—	—	一級河川・ 信濃川	1,159	揚水機	10
計	1,043	—	1,043	1,159			1,159	1,043	—	—		1,159		

#### 第4節 排水計画

##### 1. 計画基準雨量

1/10確率雨量：149.4mm/day、1/2確率雨量：86.9mm/day

(気象庁観測データ(三条観測所1954～2023)を基に、岩井角屋法による確率計算)

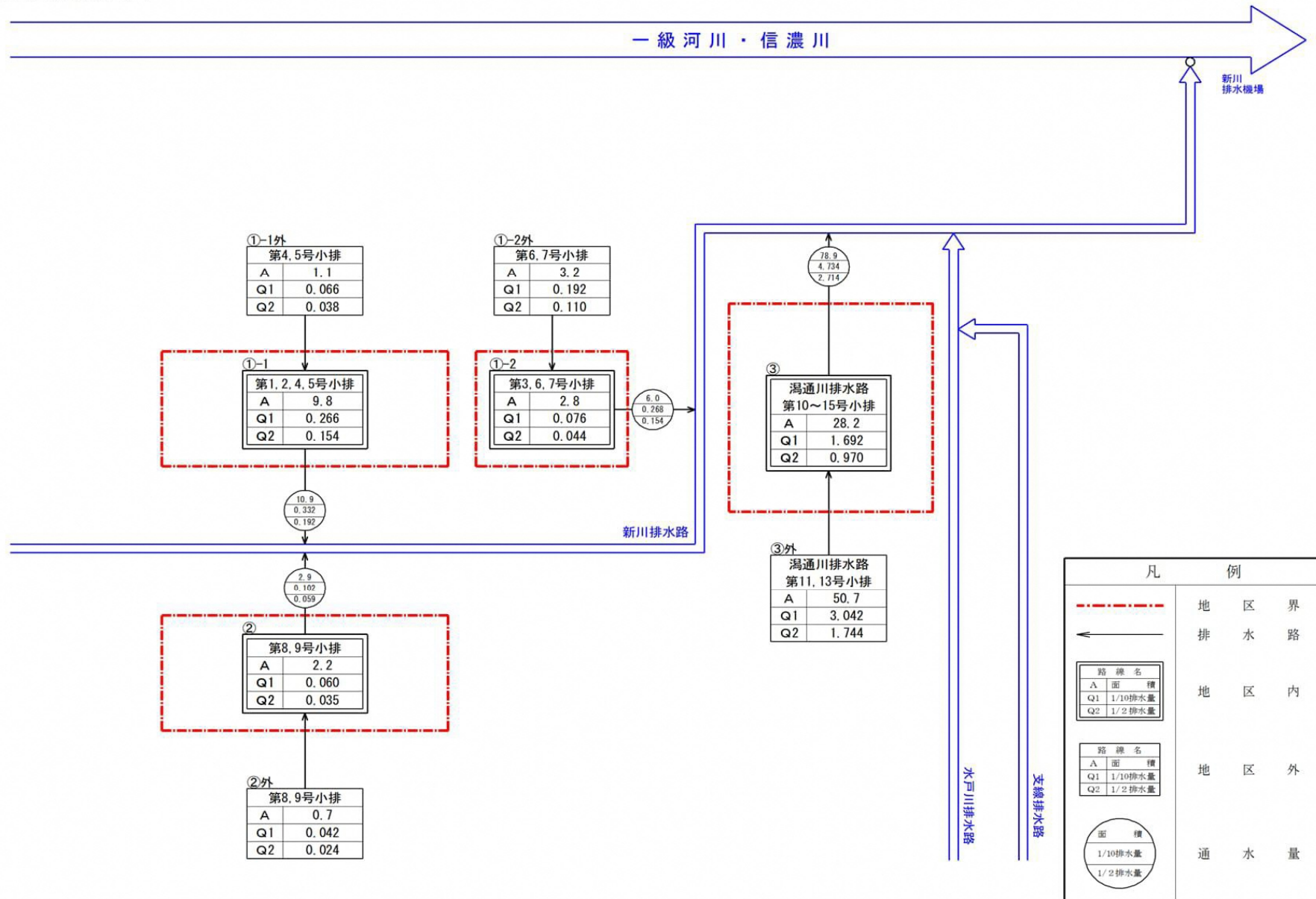
##### 2. 計画排水方式

管排水路方式(VU管)及び開排水路方式(排水フリューム)

##### 3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

排水系統名	項目		流域面積		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		基底流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		全排水量 (m <sup>3</sup> /s)			単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		備考
	受益面積 (ha)		(km <sup>2</sup> )			(m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		(m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		山地	平地		(m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		
	事業名										自然排水	機械排水			
	区画整理	計	山地	平地		山地	平地	山地	平地						
新川排水路	37.9	37.9	—	0.99	149.4 86.9	—	2.71 1.57	—	—	—	—	5.436 3.119	—	2.71 1.57	上段：1/10確率 下段：1/2確率
計	37.9	37.9	—	0.99						—	—	5.436 3.119	—	2.71 1.57	

第5節 道路計画

1. 道路

番号	項目	幅(有効) (m) × 延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
	路線名				
—	支線道路	6.0(5.0) × 2.2	敷砂利	新設又は拡幅	
—	耕作道路	4.0(3.0) × 3.2	敷砂利	新設又は拡幅	

2. 索道

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
150×70	1.0ha以上	16.3	43.0	0.1	標準区画1.05ha
—	0.5ha以上1.0ha未満	19.9	52.5	0.1	
—	0.3ha以上0.5ha未満	1.3	3.4	0.1	
—	0.3ha未満	0.4	1.1	0.1	
計		37.9	100.0		

(2) 表土扱い  
該当なし

(3) 末端道水路配置図  
該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

区分	項目	面積 (ha)		土壌統 (区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 (t/s/ha)	計画後の地下水位 (m)	集水渠出口以下の排水方式	備考
		事業名							
		区画整理	計						
田		27.3	27.3	D30	50	5.8	0.6	計画小排水路	
田		10.6	10.6	E40	50	5.8	0.6	計画小排水路	
計		37.9	37.9						

(2) 心土破碎

該当なし

3. 客土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

## 第4章 工事又は管理の要領

### 第1節 工事の内容

施設名	項目	工事内容	事業量	規模・構造	備考
農用地		整地工	37.9ha	標準区画：150m×70m=10,500㎡	区画整理工
農道		道路工	5.4km	敷砂利舗装 6.0(5.0)m、4.0(3.0)m	//
用水路		用水路工	4.6km	VUφ125～600mm ファームポンド、揚水機場 1式	//
排水路		排水路工	4.2km	VUφ200～500mm、 HF300mm×300mm～800mm×800mm、大型HF	//
暗渠排水		暗渠排水路工	37.9ha	暗渠排水間隔7.5m	//
用水路		用水路工	0.8km	導水路工VUφ150～600mm	農業用排水施設整備

### 第2節 管理の要領

#### 1. 管理者

施設名	管理者	備考
用排水路、農道、揚水機場、ファームポンド	三条土地改良区	

#### 2. 管理方法に関する基本的事項

本事業において造成（改修・整備）される施設については、三条土地改良区が維持管理計画に基づき適正な管理を行う。

## 第5章 換地計画の要領

### 1. 換地計画樹立の必要性

本地区は、土地改良事業により区画の拡大等の生産基盤の整備を図り、農業近代化を目指している。また、併せて分散した農用地の集団化を図ることとしていることから、本事業により改変される権利関係の調整並びに農用地の集団化を図るうえで換地計画の樹立が必要となる。

### 2. 換地計画樹立の基本方針

#### (1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。 ただし、上記の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士が測量した実測図及び隣接所有者の同意書を添付して申し出があった場合は、その申し出のあった地積とする。

#### (2) 農用地集団化の方法

換地区名	区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区		集落別、地目別、営農グループ別	従前土地の密集地を中心に定める	概ね1～2団地	固定畦畔

#### (3) 非農用地の換地方法 該当なし

#### (4) 清算の方法 増価額比例地積清算方式

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

用途	区分	機能交換に係る土地 (ha)			一般国有地 (ha)	合計 (ha)	備考
		国有地	都道府県有地	市町村有地			
道路		—	—	2.9	2.9	2.9	
水路		(231㎡)	—	1.2	1.2	1.2	国有地は農 林水産省
計		(231㎡)	—	4.1	4.1	4.1	

4. 換地処分の特則

換地区内の区画形状の変更に関わる工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定に関わらず、換地処分を行うことができるものとする。

## 第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名 区分	区画整理	農業用排水 施設整備	合計	備 考
主 要 工 事	1,564,000	123,000	1,687,000	内工事雑費 28,000 内地方事務費 52,000
附 帯 工 事	—	—	—	
計	1,564,000	123,000	1,687,000	

(単位：千円)

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地方事務費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	負担金額	928,750	408,650	148,600	0	0	26,000	0	0	0	52,000	0	0
農業用排水 施設整備	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	負担金額	75,625	33,275	12,100	0	0	2,000	0	0	0	0	0	0
合計	負 担 率	62.5%	27.5%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	負担金額	1,004,375	441,925	160,700	0	0	28,000	0	0	0	52,000	0	0

## 第7章 効 用

事業名等	項目 区分	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考	
備農区 業画 用整 理・ 排・ 水施 設 整	作物生産効果	29,102	6,114	総費用（現在価値化）＝ 1,959,153	
	営農経費節減効果	77,610	78,831	総便益（現在価値化）＝ 2,292,223	
	維持管理費節減効果	△ 3,742	△ 2,328	総費用総便益比	
	農業労働環境改善効果	12,039	－	＝ $\frac{2,292,223}{1,959,153} = 1.17$	
	景観・環境保全効果	6,415	－	増加所得償還率	
	国産農産物安定供給効果	5,612	－		＝ $\frac{-}{82,617} \times 100 = -$
	計	127,036	82,617		
	合計	作物生産効果	29,102	6,114	
営農経費節減効果		77,610	78,831		
維持管理費節減効果		△ 3,742	△ 2,328		
農業労働環境改善効果		12,039	－		
景観・環境保全効果		6,415	－		
国産農産物安定供給効果		5,612	－		
計		127,036	82,617		

該当なし

## 第8章 他の事業との関係

# 第9章 計画概要図

